



レース支える1600人

円滑な運営へ親身に対応



第42回
大分国際車いすマラソン



海外選手の受け入れ準備を進める川原田美江さん(左から2人目)ら通訳ボランティアグループ「Cando(キャン・ドゥ)」のメンバーら=11日、大分市

9日午後。スマートフォンに韓国の選手からメッセージが届いた。
「天気はどんな感じかな

」。グループは海外勢の対応

|| 下 ||

？」。大分国際車いすマラソンが迫る中、当日のコンディションを気にする選手に「大丈夫そうよ」と返事を書く。

大分市宮河内ハイランドの主婦川原田美江(66)は、大会の通訳ボランティアグループ「Cando(キャン・ドゥ)」の一員だ。2002年から携わり、趣味で学んだ語学を生かして



首藤安雄さん

白井隆一さん

大会は地元への誇り
大会は多くの人たちの支えで成り立っている。今年19日にレースがあり、企業・団体からの参加を含めて約1600人がボランティアを務める。

一人一人の思いを力に、「大分国際」は未来へ進む。
|| 敬称略 ||
(吉田美佳)

川原田は「みんなを子どもや孫みたいに感じる。再会を楽しみにしている」と言う。

将来は普及に協力
若い世代も大会から影響を受けている。

単なる「通訳」を超えて選手と親身に接し、大分国際ならではの交流を生んでいる。「アットホームな雰囲気」が大きな魅力と選手の評価も高い。

大分リハビリテーション専門学校(大分市千代町)で作業療法士を目指す白井隆一郎(19)は、同市大在は、昨年のレースを観戦し、世界のアスリートのスピードに圧倒された。

为中心的な役割を担ってきた。英語講師や会社員、主婦ら41人のメンバーが学生ボランティアと連携し、18カ国の選手、スタッフら約80人を迎える。

大分市光吉台の自動車整備業、首藤安雄(73)は27年前から交通指導員として沿道に立つ。コースに車や通行者が入らないよう気を配る。

れも円滑な運営に欠かせない。



記事をよく読んで、問①～⑤に答えましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕 今年の大分国際車いすマラソンには海外から何か国の約何人の選手とスタッフが参加しますか。

答え 国の数 ()カ国 , 人数 (約)人

〔問②〕 通訳ボランティアグループ「Can-do (キャン・ドウ)」は選手からどんなところが高く評価されていますか。

答え 【 _____ 】

〔問③〕 1600人の大会ボランティアがカバーする分野は多岐 (たき) にわたるとあります。記事の中で紹介されているものを全部書き出しましょう。

答え 【 _____ .
_____ 】

〔問④〕 27年前から交通指導員をしている首藤安雄さんが選手の走りを目の当たりにするたびに思うことを記事の中から書き出しましょう。

答え 【 _____ 】

〔問⑤〕 障害者スポーツには車いすマラソンのほかにどのようなものがありますか。調べてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....